

2021年3月11日 GOCOO LIVE Message from KAOLY

2011年の3月11日、被害の少なかった東京に住むワタシ達でさえ
その日から、突然、世界がパタンとページをめくってしまったかのように
全ての日常生活が止まり、違う世界に放り込まれたような日々を味わいました。

それまであたりまえに、日々打ってきた太鼓も打てず
電気を消した暗い家の中で、テレビから流れるニュースに
恐怖や悲しみや痛みをひたすら味わった長い長い日々の後

ようやくひとつの稽古場が開いて、久しぶりにメンバーが集まって
いつものように太鼓を輪に並べて

でもすぐに太鼓に飛びついて打つことは出来ず
こういう時代に立ち逢った自分達が
太鼓に出逢った意味や、太鼓を打ち続ける意味って 何なんだろうとみんな話しました。

そして やっと太鼓の前に立った時
ELEVEN という曲が生まれました。

作った、というより、曲の方からやってきた、というのがしっくりくる。
ただ自分が、その通り道となっただけ、のような感覚。
1曲作るにも、数ヶ月かかるのが常ですが
ELEVEN は、この日1日で出来上がりました。

そして、この曲の最後のひとつのピースは
2000年にGOCOOがデニス・パンクス氏と
ネイティブ・アメリカンのリザベーションを巡る旅で演奏した
虹の戦士 Rainbow Warriors のチャントでした。

まだ混乱や恐怖や痛みの中にいたにも関わらず
ELEVEN を打つたび、涙とともに、底しれぬチカラが湧いてくるのを感じました。

・・・この話をしながら、この10年、ワタシ達は 日本中世界中で
ELEVEN を打ち、伝え続けてきました。

でも何故か、2011年の記憶は混沌としていて、うまく整理できず
そして2020年は、あまりに必死で
あの頃のことを振り返ることがしばらくなかったけれど

この10年目のライブに向けて、あらためて振り返ってみた時 思ったのは
意外にも「あの頃のワタシ達は、実に強かったなあ」ということでした。
ワタシ達というのは、自分達だけじゃなく
あの時代のすべての人達。

すべてが止まってしまった日々 電気を消して暗い家の中で、恐怖とともに過ごした時期が
とても長かったように思っていたけれど

3月11日の後 ワタシ達について言えば
翌月4月22日には、復興ライブを開き、そこでELEVENを初めて打ちました。

5月にはワタシ達の道場TAWOOの仲間達と祭りを開き、みんなELEVENを打ち
その直後、TAWOOの仲間達は東北の被災地へと、太鼓を担いで
ELEVENを打ちに行きました。

同時にGOCOOは1ヶ月のヨーロッパツアーへ出て、
行く先々の国でELEVENを通して思いを伝え
たくさんの方達が、日の丸の旗をメッセージで埋め尽くして下さいました。

同じように全てが止まってしまった2020年の1年間。
でも2011年は、今思えば、止まったなんてほんの数日、数週間で
被災地の方達や、被災地に赴いたボランティアの方達を筆頭に
みんな、猛烈な勢いで走り出して、走り続けたんだなと。

その中で、溢れていた言葉は「絆」。
自分だけじゃなく、この地域、この国、この世界が生き抜くために
あの頃、ワタシ達は、見ず知らずの人とも手をつなぎ、ハグをし
励ましあって、力を合わせることを、をした。

もしかしたら、この国が、あるいは世界が終わってしまうくらい
大変な未来も あったかもしれない。
それを、今在るこの未来に繋いだのは
あの時の全員の思い、祈り、行動だったんじゃないかとさえ思うのです。

太鼓を打つ時、ELEVENを打つ時
ワタシ達は「音の柱を立てる」、と言います。

311をきっかけに、ELEVENを生み出し、伝える役を授かったことで
日本中、世界中にこの10年で、たくさんの出逢いがありました。

今回、そのみんなをzoomで繋いで一緒にELEVENを打ちたい！と準備を始めてみて
どれだけたくさんのみんなが、どれだけたくさんの思いを込めて
一緒にELEVENを打ち、音の柱を立ててきてくれたかということ
あらためて実感しました。

あの時、漠然と思い描いた10年後の未来は
これじゃない。。。
2020年はそう思って、苦しかった。

でも、今、そうしてみんなのチカラで繋がれた未来にいて 振り返ると
311をきっかけに、ワタシ達は たくさんの人達と
この世界に、ELEVENという曲を通して 数え切れないほどの 音の柱を立ててきた。

そうやって、今のこの世界を支えるなにかを
みんながそれぞれのやり方で、一生懸命 築いてきた。
それが歴史であり、それこそが、愛なんだと思うから

ワタシ達はいつだって
愛に支えられた世界に生きているんだから ダイブヨウブ。

そうしていつか、この今を振り返った時にも
「あの頃のワタシ達が、愛を持って精一杯生きて
繋いでくれたんだから、ダイブヨウブ！」と
未来のワタシ達が思えるように

それぞれの愛を、それぞれの命をかけて、カタチにしていこう。

7代先のこどもたちのために。

2020年3月11日
GOCOO KAOLY